南山っ子通信

長崎南山小学校
学校生活だより
令和元年７月号
担当（山田）
NO.81

水野源三の生き方
－人と比べない生き方－

「瞬きの詩人」と呼ばれた水野源三さんの生き方について知ってもらいたいと思います。わたしたちの子育てのヒントになるかもしれません。水野源三さんは，１９３７年に長野県で生まれ，９才の時に罹った赤痢の高熱によって重度の脳性マヒを起こして目と耳以外のすべての機能を奪われてしまいました。話すことも書くこともできない息子と何とかして意思の疎通を図ろうと母親が五十音を指で指し示したところ，源三さんは目の動きで応答し，それが亡くなる４７才まで彼の唯一の意思表示の手段となりました。

一切の自由を奪われ苦しみと絶望の中にあった水野源三さんは，１２才の時初めて聖書に触れ，１３才で洗礼を受けて信仰の道を歩むことになります。１８才からは，母親の手助けで五十音図を瞬きで指定する方法でたくさんの詩を作りました。それらの多くが神様への喜びを表す純粋な詩であったといいます。

ある日，片目の視力を失い，もう一方も失明寸前だという男の子が，両親に連れられて源三さんに会いに来ました。その子に何か語りかけて欲しいと求められた源三さんは，五十音図を前にして瞬きで次のように話しかけました。

かずひでくん,ひととくらべないでいきてください。

それを聞いたその子の母親は深くうなずきながら「そうですよねぇ。」と小さな声でつぶやき，生きる勇気を強くして帰って行かれたそうです。

人と比べる生き方は，不安やひがみ，失望，惨めさを生む生き方につながるということを源三さんは自分の体験から誰よりもよく知っており，そのことを視力を失いつつある男の子にも伝えたかったのだろうと思います。

テストや成績表，通知表などが学校から届くと，わたしたちは，ややもすれば順位ばかりを気にしたり人と比べたりしがちになることがあります。学年が上がるにつれ，また中学や高校に進むにつれてその傾向は強くなっていくように感じます。源三さんが語りかけたように，人と比べるのではなく，我が子のがんばりやよい点に目をとめ，そして褒めて伸ばしてあげるようにしたいものだと思います。

人と比べないで自分らしく生きて欲しいという願いから作られた詩と，すべてに感謝しながら生きる水野源三さんの生き方から生まれた詩の２つを紹介します。

生きる

水野　源三

神さまの　大きな　み手の　なかで
カタツムリは　カタツムリらしく　歩み
ホタル草は　ホタル草らしく　咲き
あまがえるは　あまがえるらしく　鳴き
神さまの　大きな　み手の　なかで
わたしは　わたしらしく　生きる

ありがとう

水野　源三

ものが言えない　わたしは
ありがとうのかわりに　ほほえむ
朝から何回も　ほほえむ
苦しいときも　悲しいときも
心から　ほほえむ

人と比べないで喜びと感謝のうちに毎日を生きる水野源三さんの生き方，その生き方の根底には「イエスさまがいつも共にいてくださる」という深い信仰がありました。水野源三さんの生き方に倣いたいものです。

夏休みを前にして

ゲームセンター,ゲームコーナーは立ち入り禁止です！

法律では午後６時までなら小学生がゲームセンターに入ることは許されているそうです。たとえ法律で許されていても，全国の多くの小学校では，小学生が子供同士でゲームセンターに行くことは禁止しています。

南山小学校では，ゲームセンターばかりでなくゲームコーナーへの立ち入りも禁止しています。お金を無頓着に使い込んでしまうばかりでなく，幅広い年齢層の子供たちが集まるゲームセンターなどでは，お金を巻き上げられたり，次に持ってくるように強要されたりといった問題が数多く発生し報告されています。小学生の高学年の保健の教科書には，犯罪から身を守るための方法として，
「犯罪が起こりやすい場所に近づかないこと」
と記載されています。危険な場所には近づかないことが一番です。

長い夏休みの間には，ホッとした気持ちのゆるみから学校の決まりをついつい破ってしまう心配も考えられます。子供たちが楽しく安全に夏休みを送るためにも，学校の決まりをご家庭で今一度確認されてください。

- ゲームセンターには，親が同伴であっても行ってはいけません。
- 大型店舗のゲームコーナーにも行ってはいけません。
- 映画館やカラオケなど，子供同士で行ってはいけません。
- ココウォークや夢彩都などの大型商業施設にも子供同士で行ってはいけません。

♧♧ 教室紹介 ♧♧

５年２組　担任　伊東　亮 先生

- 高学年らしいめりはりのついたクラス
- 勉強も掃除も遊びも何事も楽に済ませるのでなく，自ら進んで取り組み，ベストを尽くすクラス
- 全員がいつでもスマイルを忘れないクラス

５年２組はそういったクラスを目指して日々笑顔で元気にがんばっています。

先日行われたチャリティーバザーではお化け屋敷に挑戦しました。休み時間でもよく話し合い，一人ひとりの活躍の場ができるように準備を進めることができました。

正面玄関で育てているマリーゴールドは，５年２組で種から育てたものです。目立たないところでも水やりや雑草抜きのお世話をしてくれている子どもたちもいます。伊東先生は，「自ら進んでやる」といったクラス目標が具現化されている様子を見ると，とてもうれしい気持ちになると話されていました。これからも好奇心をもってアンテナを大きく広げ，明るく活動して欲しいと願っています。

♪いっしょにうたおう

きもちが　くらくなったなら
さけぼうよ　イエスさまに
なんでもしってる　イエスさま
すぐにたすけてくれる

ハレルヤ　じゅうじかをみあげて
ハレルヤ　いっしょにうたおう
ハレルヤ　なにがおこっても
イエスさまが　いつもいっしょさ